

# もんじゅ運営交代勧告

## 規制委「半年以内に」

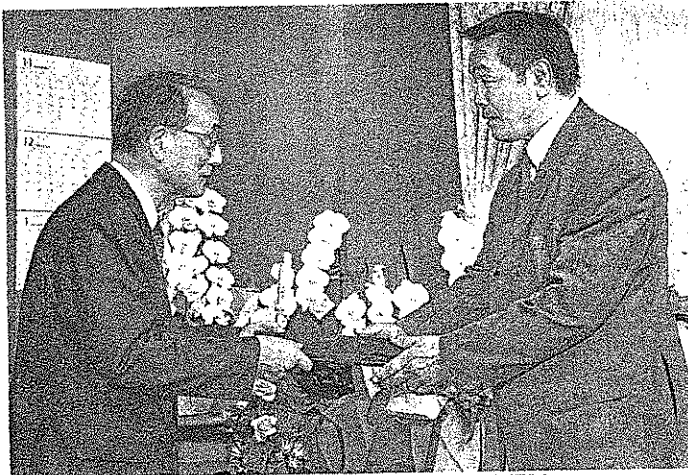
### 見つからない場合 燃料抜き取りを

高速増殖原型炉「もんじゅ」（敦賀市）で、多数の点検漏れが起きた問題を受け、原子力規制委員会は十三日、現在の日本原子力研究開発機構（原子力機構）の運営では安全を保てないとして、半年以内をめどに運営者を交代させるよう文部科学省に勧告した。担い手が見つからない場合でも、原子炉からの核燃料抜き取りなど、抜本的なリスク低減策を取るよう求めた。――関連②③面

文科省は専門家も交えた検討会で新たな担い手を探すという。ただ、高速炉には非常に困難を伴う。開発

段階のもんじゅで利益を出すのは難しく、民間企業は容易に引き受けられない。見つかった場合でも、規制委が運

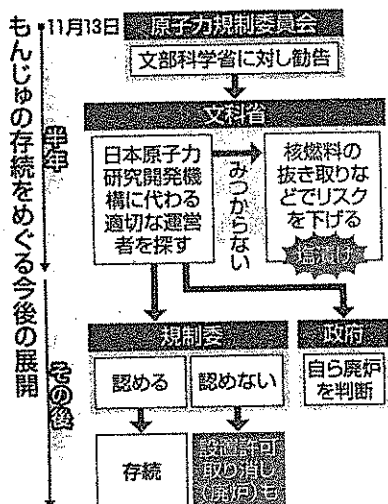
転時の安全も担えるかと判断しないと、存続は難しい。設置許可の取り消し（廃炉）につながる可能性がある。原子力機構からもんじゅ部門を切り離して新組織とする道もあるが、「看板のすげ替え」と受け取られる公算が大きい。この日の記者会見で、規



馳浩文科相（左）に勧告書を手渡す原子力規制委員会の田中俊一委員長（右）＝13日、文科省で

#### もんじゅ勧告の骨子

- 保守管理の問題発覚で、運転主体としての日本原子力研究開発機構の適格性に重大な懸念
- 原子炉を起動していない段階で適正能力のない者が、運転段階で行えるとは考えられない
- 外部人材登用などの対策は功を奏しておらず、今後、抜本的な事情変化は認められない
- 機構はもんじゅ運転に必要な資質を有していない
- 文科科学相は機構に代わる運転主体を特定し、特定困難なら施設の在り方を抜本的に見直し、半年を目途に示せ



制委の田中俊一委員長は

「安全上の問題から評価する」と部門切り離しについて全否定しなかったが「勧告に至ったのは機構ではだめだ」という判断だった」と述べ、基本的にはあり得ないとの認識を示した。

勧告は、担い手が見つからない場合、もんじゅのリスクを抜本的に低減させる

#### 国が責任持って 敦賀市長

敦賀市の洲上隆信市長は「極めて重い勧告。一方で規制委の適切な指導があれば勧告を出すような事態にはならなかったのではないかと疑問がある。もんじゅの役割を全うできること、国が責任を持って取り組むことを強く望む」とのコメントを発表した。

#### 迅速に方向性を 知事

西川一誠知事は「もんじゅの安全基準を作らずに議論するのはどうか」と疑問を呈し、「政府全体が体制を整え、迅速に議論して方向性を出すことが重要」と指摘した。運営主体については「長年やっている、現に存在するものは大事。それがベース」と述べた。

よう求めている。

田中委員長は「見つからないから」と、するする時間過ぎていくことは困る」と説明。炉内に残っている核燃料や液体ナトリウムを抜き取り、基本的にリスクのない状態にするまでを念頭に置いていることを示唆した。

原子力規制委による勧告に対し原子力機構の児玉敏雄理事長は「このような事態に至ったことは誠に残念。保全計画の抜本見直しなどの徹底的な改善に全力を傾注し、その成果を示すことにより、責務を果たしていく」とのコメントを発表した。